

## 牧角 和宏(まきずみ かずひろ)先生のプロフィール

●勤務先 牧角内科クリニック

●経歴 昭和59年 鹿児島大学医学部卒業後、九州大学第一内科入局

平成3年より 唐津赤十字病院内科副部長(循環器担当)

平成8年より 北陸大学(石川県金沢市)薬学部東洋医薬学教室教授

平成11年 牧角内科クリニック(福岡)開院

平成12年 「森立之研究会」(於東京)講師

現在、日本東洋医学会専門医・指導医、日本和漢薬学会評議員、  
日本臨床内科医会代議員、福岡医師漢方研究会理事、  
福岡市早良区内科医会監事、福岡県内科医会理事等も務める

●専門 内科、循環器科、東洋医学科



### ◆先生が初めて漢方と出会われたのはいつ頃ですか

小学校の頃から視力が低下し、鍼治療に通わされていました。一時にですが、改善していた時期もあったようです。同じ鍼灸治療院で鍼治療を受けた兄は、毎年できていた「しもやけ」が消え、著効であったと記憶しています。

中学の時分に母親が椎間板ヘルニアで動けなくなり、手術を勧められたのですが拒否したため、民間療法の温冷灸を試み、日舞が踊れるまでに改善させたのが代替治療の初めての経験でした。母は結局20年後に椎間板の手術を受けたのですが、20年間手術を延期させ得たのですから、有効だったのだらうと思います。

高校の時期にひどいアトピーとなり、西式の断食や、煎薬を服用したのが自分自身の漢方治療経験の初めでした。残念ながら漢方の苦い煎薬は無効で、開業医の先生の静脈注射も無効。大学病院を二つ巡り、最後にステロイド内服で事なきを得ました。

その頃、祖父が前立腺癌で大学病院に入院し、当時の最先端医療であるホルモン治療を受けていたのですが、大塚敬節先生のご著書などを参考に薬用人参主体の煎薬を服用させたところ幸い生き延びさせることができました。自分自身では著効体験がありませんが、母親や祖父をそれぞれ「奇跡の回復」にさせ得たことが、医学部を志望するきっかけのひとつとなりました。

### ◆先生の御専門で漢方はどのような効果を発揮していますか

内科での専門分野は循環器疾患です。流石に本態性高血圧や高脂血症、狭心症を漢方主体で診ることは困難ですので、補助的に漢方を併用することで愁訴の軽減に役立っています。

漢方主体で通院されている患者さんは、婦人科領域(冷え性、不妊症、月経困難症、更年期障害)、小児科領域(虚弱体質、肥満症、夜尿症、喘息)、整形外科領域(腰痛、神経痛)、精神科領域(不眠症、うつ)など多彩です。

その他、尋常性乾癬、尋常性?瘡、蕁麻疹、慢性湿疹、鬱滞性皮膚炎、脂漏性皮膚炎等、西洋医学では難治の皮膚病にも著しい効果をあげています。

### ◆普段の治療で漢方薬と西洋薬との割合は？ 漢方薬のみ30:西洋薬と漢方薬の併用40:西洋薬のみ30

### ◆10年後の漢方医療はどうなっている(またはどうあってほしい)とお考えですか

漢方のみならず針灸、養生など広い意味での伝統的中国医学全般の有用性が認められ、保険治療の適応範囲が拡大してほしいと願っています。

伝統的中国医学の全体像を明確にすること、漢方の守備範囲をはっきりさせることが重要と考え、「福岡医師漢方研究会」例会基礎講座や「森立之研究会」(於東京医科歯科大学)にて、漢方古典の講義をしています。ここ数年は『外臺祕要方』や『太平聖恵方』等の紹介をしています。もし、ご興味をおもちの先生がいらっしゃいましたら是非ご聴講ください。一方で新薬はだめ、何もかも漢方という迷信的な誤解はなくなってほしいと考えています。

### ◆先生ご自身漢方を飲んで効果を実感なさったことがありますか

1. 癌の化学療法の際の嘔気に「堅中湯(桂枝湯加半夏茯苓)」。  
西洋薬の「ラモセトロン塩酸塩」よりも予防効果がありました。



2. 感冒初期のいわゆる「太陽病期」には、麻黄附子細辛湯が自分の場合は、著効します。『太平聖恵方』巻九にみられる宋以前の傷寒治療では、傷寒(狭義傷寒)初期(太陽病期)の附子投与(発汗剤としての附子の効用)が一般的であったことを実感しています。

### ◆これから漢方医を志す方に一言お願いします

伝統的中国医学の体系全般を認識されると、現代医学の診断・病態解析・治療にも数多くのヒントを得ることができます。陰陽の相互関係や、虚実に対する補寫の考え方、「通則不痛、不通則痛」等の概念は、現代医学の理解にも応用できる普遍的な概念と考えられます。

ただ単に「漢方薬使い」としての臨床の知識だけでも患者様の幸福に役立ちますが、先生方の診療全般に役立つような学習をされることをお勧めします。

### ◆漢方に関心のある一般の方に一言お願いします

病気になったときだけお薬やお医者さんに頼るのではなく、ふだんから食事、運動、呼吸、心の持ち方を整えることによって健康を維持すること(これを伝統的中国医学では「養生」と言います)が大切です。

「快眠・快食・快便」を健康のパロメーターとして、「食・息・動・想」のバランスを整え、そもそもお薬などに頼らない生活を送られるようにしてください。

「未病を治す」という言葉があります。高血圧症、高脂血症、初期の糖尿病などいわゆる「生活習慣病」は、まさにこの「未病」の段階です。この状況を改善するのは、一に”食事”、二に”運動”、三に”睡眠”、四に”便通”そして”心の平靜”が大切です。これらについても、何かお薬を服用してどうこう、ではなく皆様方の健康維持の努力こそが大切と考えます。

### ◆座右の銘、お好きな言葉がありましたら教えてください

この世のみならず、宇宙のすべてを支配する「偉大なる流れ」があります。  
人生を幸せにすることは簡単です。  
「偉大なる流れ」を知り、「流れ」に調和するだけでよいのです。(山岸隆)



注意:先生へのインタビューは、当会が2010年10月に行った内容です。